

7月から8月にかけて、本支部で平和を守るための多彩な取り組みが行なわれました。集い、学び、そして、行動して共感を広げる仲間達の様子をぜひご覧下さい。

けんせつ

印刷部数 106,700部 発行人・編集人 吉川 豊

定価 五十円
(年間購読料 千八百円)
購読料は組合費のなかに含まれています

東京土建一般労働組合
東京都新宿区北新宿1-8-16
電話03 (5332) 3971 (代表)
FAX03 (5332) 3972
ホームページ
http://www.tokyo-doken.or.jp/

平和特集号

米国追従の下、進む「戦争する国づくり」のリアル

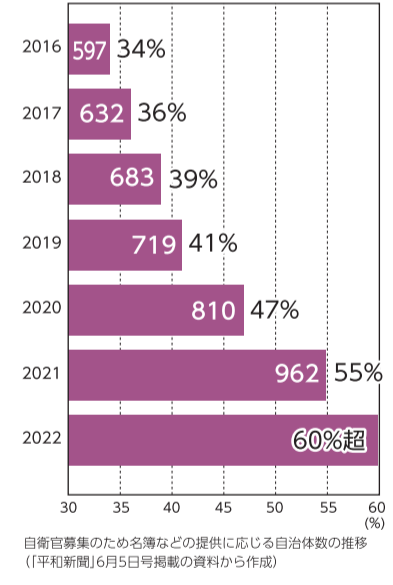
子どもも、若者を守れ

自衛隊への個人情報提供

国家に迫られる自治体

昨今頻発する自然災害等で住民を助け、地域の復興のために懸命に汗を流す自衛隊。そんな自衛隊にあらがれを抱く若者や、感謝する国民は多くいます。一方、その隊員募集をめぐっては十分な志願者を確保できない状況が続いて

となっており、防衛大学卒業生における任官辞退者も約1割にのぼっています。理由の一つは、2015年の安保関連法の成立です。この法律により戦場で「殺し、殺される」危険度が格段に上がりました。そして、現在進行するロシアによるウクライナ侵攻に伴う国際情勢の変化。中国と覇権を争うアメリカに追従する中では、戦争に巻き込まれるリスクを現実として考えざるを得ません。



減少する入隊希望者

任務の危険、格段に上昇

自治体による自衛隊への名簿提供は、こうした状況下で「協力」を迫られ、法的根拠もあいまいな中で行なわれています。自衛隊は高校3年生計では18歳や22歳などの情報を集計し、電子媒体で名簿や宛名シールなどを自衛隊に提供した市区町村は全国1741自治体のうち、約55%にあたる962自治体にのみ提供されています。2021年の集計では18歳や22歳などの情報を紙・電子媒体で名簿や宛名シールなどを自衛隊に提供した市区町村は全国1741自治体のうち、約55%にあたる962自治体にのみ提供されています。2021年の集計では18歳や22歳などの情報を紙・電子媒体で名簿や宛名シールなどを自衛隊に提供した市区町村は全国1741自治体のうち、約55%にあたる962自治体にのみ提供されています。

貧困と格差を広げ 経済的弱者狙う

政府は軍事費を5年間で43兆円も投入する一方で命やくらしの予算を削り、インボイスで増税し、保険証を廃止してまでマイナンバーカードの推進に固執しています。貧困と格差を固定化して、個人情報を集めた上で何をするか。経済的弱者の健康な若者に狙いを定めるように、入隊を前提にした奨学金制度の拡充などが議論されており、「経済的徴兵制」の下地がつけられつつあります。若者を戦場に送ってはなりません。



目黒区役所1階、総合窓口の目の前に大きく設けられた自衛隊採用案内専用の掲示板。40Pのパンフレットや「募集課」行のハガキが常備されており、「平和を仕事にする」との文言と共に「様々な資格・技能を習得する機会」「寮(家賃なし)の居住者に食事や寝具が無償で支給」などの記載が見える

平和特集号 主な記事

- PFAS汚染・東京の水が危ない 3面
- 変貌を遂げる横田基地の現在(いま) 4・5面
- 極寒のラーゲリより、愛を込めて 6面
- マンガであの戦争を追体験する 8面

■「最後の、子供の絵本」
「おぼけ」と言っても少しかわい。使えるものでも捨ててしまおうと、子供がくすぐりに引きずりこまれ、「捨てたのは誰だ」と「ミ」に追いかける話。怖いというか教訓的だ。思えば、この暑すぎる夏もくすぐりおぼけのせいかもしれない。後先考えず浪費と消費を繰り返した大人が怒らせたのだらう。

■「メキシコの夢ホテル」
は南国リゾートの非日常感にあふれ、目を涼ませてくれる。緑に囲まれた中庭のプールに石造りの高い天井。広々とした空間でリラックスタイムを過ごそう。そして、背筋を冷やせることと掛け合いなのは「えほん 遠野物語・かっぱ」。なにしろ遠野の河童は赤いのだ。馬小屋でとらえられ、伏せたかっぱ桶の下から赤い手が出て、「なんて、緑ならまだしも赤は怖い。」

■「エアコンの風」
風に疲れたので、見て涼しくなるような本を眺めてみた。何冊か紹介する。まず「ときめくクラゲ図鑑」。アジの子どもと海をたたくようオキクラゲがなかなか涼しい。続いて、とびだすポップアップ絵本『雪の結晶』。開くとキラキラした雪の結晶が立体的に飛び出す仕掛けだ。トナカイ、サンタなどのモチーフが多く登場するが、夏に見るのも悪くない。